

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第52週、53週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (53 週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 4 例。

3 類感染症：報告なし。4 類感染症：つつが虫病 13 例。

5 類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌感染症 1 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例。

	疾患名	報告 保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	0~4歳	男	無症状病原体保有者	症状なし
			70歳代	男	肺結核	症状なし
		都城	80歳代	女	肺結核	咳
		高鍋	90歳代	女	肺結核	発熱
4類	つつが虫病	宮崎市	70歳代	女	—	発熱、刺し口、発疹
			80歳代	男	—	発熱
		都城	80歳代	女	—	発熱、刺し口、肺炎
		日南	60歳代	女	—	頭痛、発熱、刺し口、発疹
			60歳代	男	—	発熱、発疹
			70歳代	男	—	発熱、刺し口
			70歳代	男	—	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹
		小林	80歳代	男	—	発熱、刺し口、発疹
			40歳代	男	—	頭痛、発熱、刺し口、発疹
			60歳代	男	—	頭痛、発熱、刺し口、発疹
		日向	70歳代	女	—	発熱、刺し口、発疹、全身倦怠感
日向	70歳代		女	—	発疹	
中央	日向	70歳代	女	—	発疹	
	中央	60歳代	男	—	頭痛、発熱、発疹、肺炎	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	宮崎市	90歳代	男	—	肺炎 菌種: <i>Enterobacter aerogenes</i>
	クロイツフェルト・ヤコブ病	宮崎市	70歳代	男	古典型クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD) 診断の確実度: ほぼ確実	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体路・錐体外路症状、記憶障害、精神・知能障害

□ 定点把握の対象となる5類感染症

●第52週

・定点医療機関からの報告総数は827人(定点当たり24.9)で、前週比94%とやや減少した。前週に比べ増加した主な疾患は水痘で、減少した主な疾患は流行性耳下腺炎であった。

●第53週

・定点医療機関からの報告総数は461人(定点当たり14.1)で、前週比57%と減少した(年末年始の休診含む)。前週に比べ増加した疾患はインフルエンザで、その他の疾患は減少した。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【インフルエンザ】

・報告数は20人(0.34:流行開始の目安1.0)で、前週比222%と増加した。年齢別では5歳未満が全体の15%、5-9歳が15%、10-14歳が15%、15-19歳が10%、20-59歳が35%、60歳以上が10%であった。

【RSウイルス感染症】

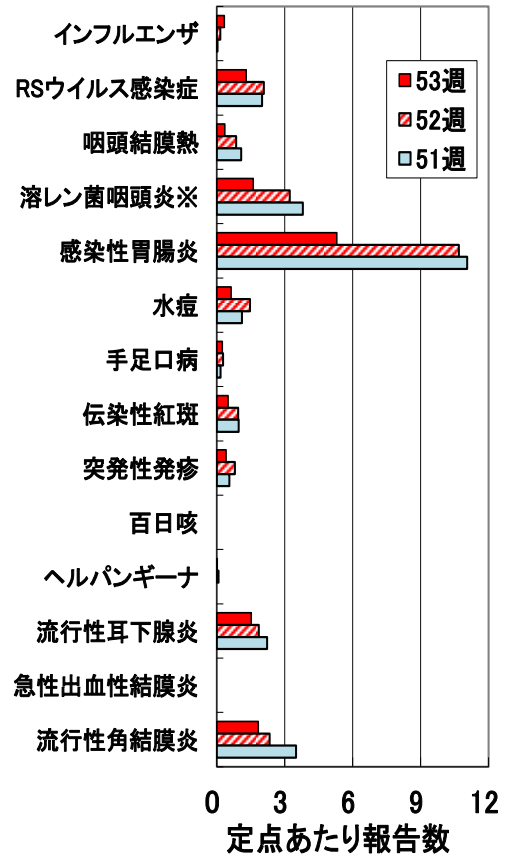
・報告数は47人(1.3)で、前週比63%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.2)の約1.1倍であった。年齢別では1歳以下が全体の約8割を占めた。

*過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

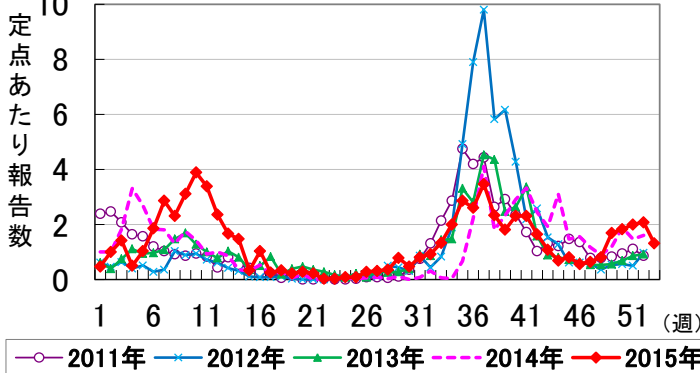
・報告数は58人(1.6)で、前週比50%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(2.2)の約0.8倍であった。年齢別では3-6歳が全体の約半数を占めた。

《3週間の推移》

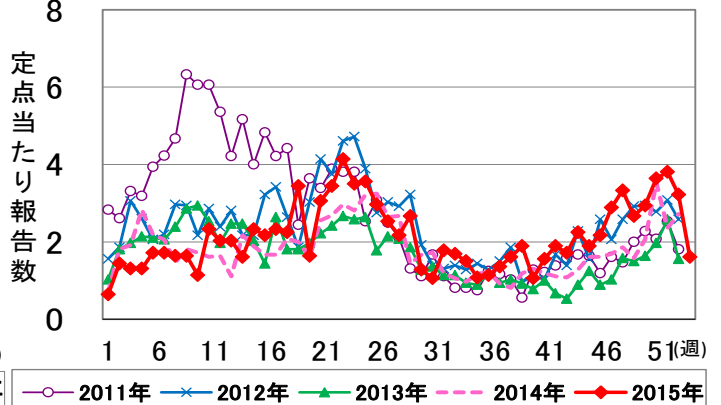


※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

RSウイルス感染症 発生状況



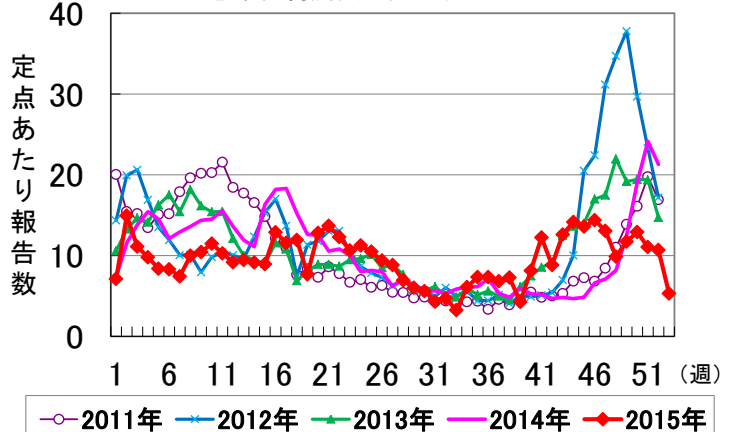
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



【感染性胃腸炎】

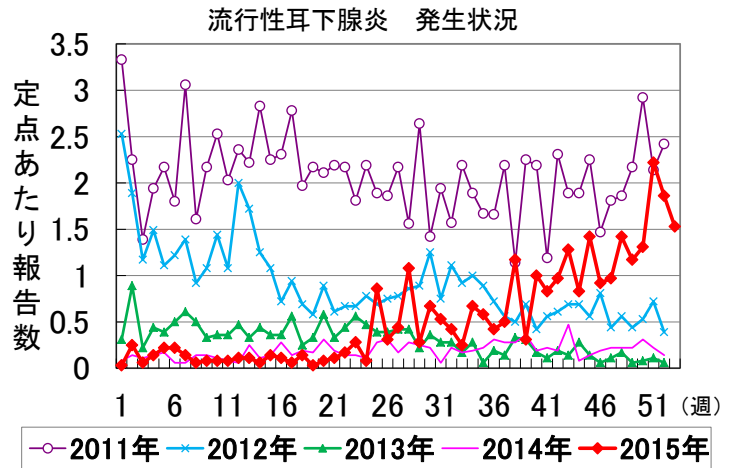
・報告数は191人(5.3)で、前週比50%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(18.1)の約0.3倍であった。年齢別では1-4歳が全体の約半数を占めた。

感染性胃腸炎 発生状況



【流行性耳下腺炎】

・報告数は55人(1.5)で、前週比82%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値*(1.2)の約1.3倍であった。延岡(10.3)保健所からの報告が多く、年齢別では3~4歳が全体の約4割を占めた。



★基幹定点からの報告★

●第52週

○マイコプラズマ肺炎：宮崎市保健所から1例報告があった。

10歳代で咽頭ぬぐい液から *Mycoplasma pneumoniae* が検出された。

●第53週 報告なし

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	52週	53週
宮崎市	なし	なし
都城	なし	なし
延岡	流行性耳下腺炎(6.8)	流行性耳下腺炎(10.3)
日南	感染性胃腸炎(42.3)	なし
小林	流行性耳下腺炎(4.0)	なし
高鍋	なし	なし
高千穂	なし	なし
日向	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)、 流行性耳下腺炎(3.8)	なし
中央	なし	なし

* 流行警報レベル開始基準値 *

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

* 流行注意報レベル基準値 *

- ・流行性耳下腺炎(3.0)

□ 病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成28年1月4日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EPEC(OUT:H2)	70歳代	男	2015.12.9	—	便	2015.12.18
EPEC(OUT:H21)	80歳代	男	2015.12.9	—	便	2015.12.18

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状等	材料	検出日
ヘルペスウイルス6型	0~4歳	女	2015.12.10	急性脳症疑い、40℃、下痢	咽頭ぬぐい液	2015.12.24
アデノウイルス54型	0~4歳	男	2015.12.11	急性肺炎、アデノウイルス肺炎疑い 40℃、下気道炎、角膜炎	咽頭ぬぐい液 結膜擦過物	2015.12.22
ライノウイルス	0~4歳	男	2015.12.17	不明熱、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2015.12.22
ライノウイルス	0~4歳	女	2015.12.18	肺炎、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2015.12.22
ライノウイルス	0~4歳	男	2015.12.21	急性細気管支炎、喘息様気管支炎 38.8℃、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2015.12.22
RSウイルス	0~4歳	女	2015.12.14	RSV感染症、肺炎、39℃ 上気道炎下気道炎、肝機能障害	咽頭ぬぐい液	2015.12.18

○急性肺炎及び角膜炎を有する小児の咽頭ぬぐい液及び結膜擦過物からアデノウイルス54型(Ad54型)が検出された。Ad54型は近年確認された新しい型であり、流行性角結膜炎の病原体として流行している。全国において2015年に流行性角結膜炎患者から検出されたウイルスをみると、Ad54型が最も多く、全体の約3割を占めていた。Ad54型は院内感染事例も報告されており、感染拡大に注意する必要がある。

✚ 全国第 51 週、52 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

● 第 51 週

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	328 例				
3類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	22 例	腸チフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	11 例	A型肝炎	3 例	つつが虫病	13 例
	デング熱	7 例	日本紅斑熱	2 例	レジオネラ症	27 例
5類感染症	アメーバ赤痢	13 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	18 例
	急性脳炎	4 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6 例
	後天性免疫不全症候群	20 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例	侵襲性肺炎球菌感染症	55 例	水痘（入院例）	2 例
	梅毒	47 例	播種性クリプトコックス症	3 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	2 例				

● 第 52 週

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	372 例				
3類感染症	コレラ	1 例	細菌性赤痢	2 例	腸管出血性大腸菌感染症	12 例
	腸チフス	1 例				
4類感染症	E型肝炎	10 例	つつが虫病	25 例	デング熱	3 例
	マラリア	1 例	レジオネラ症	17 例	レプトスピラ症	1 例
5類感染症	アメーバ赤痢	19 例	ウイルス性肝炎	5 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	17 例
	急性脳炎	5 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8 例
	後天性免疫不全症候群	21 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	7 例	侵襲性髄膜炎菌感染症	2 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	60 例	水痘（入院例）	4 例	梅毒	51 例
	播種性クリプトコックス症	2 例	破傷風	1 例		

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

● 第 51 週

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 104%とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザと流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患は手足口病であった。

R S ウイルス感染症の報告数 6,933 人(2.2)で前週比 93%とやや減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.5)の約 1.5 倍であった。愛媛県(6.2)、香川県(5.9)、徳島県(5.4)からの報告が多く、年齢別では 6 ヶ月～1 歳が全体の約半数を占めた。

● 第 52 週

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 94%とやや減少した。前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザと伝染性紅斑で、減少した主な疾患は R S ウイルス感染症であった。

伝染性紅斑の報告数 2,616 人(0.83)で前週比 115%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.22)の約 3.8 倍であった。山形県(3.1)、大分県(2.4)、北海道(2.2)からの報告が多く、年齢別では 4～6 歳が全体の約半数を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2015年 第53週(12月28日～1月3日)

疾病名		第51週	第52週	第53週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	2	9	20	3	4		1	2	3	1	1	5
	定点あたり	0.03	0.15	0.34	0.19	0.40	0.00	0.20	0.40	0.50	0.50	0.17	2.50
RSウイルス 感染症	報告数	72	75	47	18	1	16	2		4		5	1
	定点あたり	2.00	2.08	1.31	1.80	0.17	4.00	0.67	0.00	1.00	0.00	1.25	1.00
咽頭結膜熱	報告数	39	31	13	2	2	2	3		1		3	
	定点あたり	1.08	0.86	0.36	0.20	0.33	0.50	1.00	0.00	0.25	0.00	0.75	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	137	116	58	16	7	15	10				9	1
	定点あたり	3.81	3.22	1.61	1.60	1.17	3.75	3.33	0.00	0.00	0.00	2.25	1.00
感染性胃腸炎	報告数	398	385	191	52	26	13	40	24	14		12	10
	定点あたり	11.06	10.69	5.31	5.20	4.33	3.25	13.33	8.00	3.50	0.00	3.00	10.00
水痘	報告数	40	53	23	10	2	6	1				1	3
	定点あたり	1.11	1.47	0.64	1.00	0.33	1.50	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	3.00
手足口病	報告数	6	10	9	4		5						
	定点あたり	0.17	0.28	0.25	0.40	0.00	1.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	35	34	18	9	2	5	1			1		
	定点あたり	0.97	0.94	0.50	0.90	0.33	1.25	0.33	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	20	29	15	5	3	3		2	1			1
	定点あたり	0.56	0.81	0.42	0.50	0.50	0.75	0.00	0.67	0.25	0.00	0.00	1.00
百日咳	報告数												
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数		3	1	1								
	定点あたり	0.00	0.08	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	80	67	55	1	4	41		3			6	
	定点あたり	2.22	1.86	1.53	0.10	0.67	10.25	0.00	1.00	0.00	0.00	1.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数												
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	報告数	21	14	11	10		1						
	定点あたり	3.50	2.33	1.83	3.33	0.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数												
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	報告数												
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ 肺炎	報告数		1										
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎	報告数												
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数												
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数

下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2015年第1週～53週)

2類感染症	結核	213例(4)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	111例				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	2例	重症熱性血小板減少症候群	9例
	つづが虫病	61例(13)	デング熱	1例	日本紅斑熱	9例
	マラリア	1例	レジオネラ症	5例	レプトスピラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	5例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	5例(1)
	急性脳炎	5例	クロイツフェルト・ヤコブ病	4例(1)	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4例
	後天性免疫不全症候群	15例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性髄膜炎菌感染症	1例
	侵襲性肺炎球菌感染症	6例	水痘(入院例)	2例	梅毒	4例
	播種性クリプトコックス症	3例	破傷風	8例		

()内は今週届出分、再掲